

≪今日の聖書から≫今日の御言葉にも掲げましたが、持ち物をもって・・・、ということをもう一度考えてみましょう。聖書で“持ち物”というとき、金銭で評価されるものに限ってはいません。“それはいくらかの価値の物が”と、思いを巡らせてしまう社会に私達は生きていますが、聖書は、そうは言っていないのです。日本語には、無駄にしてしまう事を“ぼうにふる”という言葉があります。聖書は“豊かに実を結ぶ”ために、キリストと共に歩む、価値ある財産の用い方を教えているのです(わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。ヨハネ15：5)。ある人がギャンブル好きで、寝ても覚めても、勝ち方ばかり研究していたとしましょう(そんな人は実際にいますが)。その人は労力も財産も時間も、ギャンブルに捧げてしまっているのです。しかし私たちは神様が与えて下さることに夢中になることや捧げることが出来るのです。もし今無駄なことに、時間を費やしていたり、散財していたら、神様の招きに答えて献身している姿とは言えないのです。今朝の聖書の箇所ですが、“罪深い女を赦す(新共同訳の小見出し)”につづく“婦人たち、奉仕する”という箇所になります。パリサイ派の人々を支えていた信仰によれば、女性の働きということ、あえて取り上げることはしませんでした。しかしイエス様は、彼らと論争しながら、女性にも男性にも等しく奉仕を求められ、主に仕える者達として育てられました。そして選ばれた者達に大きな使命を与えられました。マグダラのマリヤが出てきます。間違いなくイースターの朝の出来事として記録されている、あのマグダラのマリヤでしょう。ヘロデと関わりのあるヨハンナという人も記されています。3節に“一行に奉仕した”とありますがこの一行というのは、1節にあるように十二弟子のことです。すなわち働き人を支えることに勤めたのです。マリヤは七つの悪霊にとりつかれていたとあります。そのような病や試みに合う姿からの解放の姿が、奉仕する、教会でよく使う言葉で言いますと、献身する姿だったのです。極当たり前のことを聖書は書いています。“持ち物をもって”とあります。私たちの教会も同じことです。教会の代表者を支える姿です。牧師も献金はしますが、実はそれも捧げられたものの中からなのです。多くを用意し、多くを捧げましょう。

週報

2007年 7月 22日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
 使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式	第一日曜日)
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885
 静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26
 ☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp
 牧師 村上定幸